

第 23 期 事 業 計 画 書

平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

我が国及び諸外国の産業、通商、資本市場の動向等を中心とした世界経済に関する調査研究の実施、シンポジウムの開催、研究成果の公表を通じて、世界経済のより一層の安定的な発展に資することを目的として、以下の事業を行う。

1. 世界経済の動向に関する研究会議の開催

米国ブルッキングス研究所、英国王立国際問題研究所（チャタムハウス）、中国国務院発展研究センター、野村証券金融経済研究所等が参加する研究会議を開催する。全体テーマはグローバル・インバランスとアジアの経済成長戦略とし、金融危機後のグローバル・インバランスの改善、金融危機後の中国及び日本を中心としたアジアの経済成長モデルについて、研究成果を発表し、討議する。平成21年11月、日本で開催する。

2. 世界の資本市場の最新動向に関する研究会議の開催

①中国国務院発展研究センター/野村資本市場研究所 共同研究会議

全体テーマは政府系資金と運用ガバナンスとし、政府系資金の運用ガバナンス、国家外為管理局・中国投資有限責任公司・全国社会保障基金の運用経験、基礎年金の運用ガバナンス、政府系資金の運用における受託者責任、世界各国のソブリン・ウェルス・ファンドをめぐる議論、について研究成果を発表し、討議する。平成21年5月、中国で開催する。

②ブルッキングス研究所/ウォートン・スクール/野村資本市場研究所 共同研究会議

全体テーマは信用危機後の金融とし、金融危機後の日本の金融機関の変化、金融機関の役員報酬問題、ヘッジファンド業界の将来、商業銀行の将来について研究成果を発表し、討議する。平成21年10月、米国で開催する。

3. 出版

今年度は以下の2種類の出版を予定している。

- 平成20年10月に開催した、ブルッキングス研究所/ウォートン・スクール/野村資本市場研究所 共同研究会議の成果を論文集として刊行する。全体テーマはサブプライム危機後の金融と証券化であり、SIV（ストラクチャード・インベストメント・ビークル）の勃興、サブプライム危機に対する政策対応および米欧日の中央銀行の対応の評価、サブプライム関連訴訟の法律と経済面からの分析、今後の証券化市場の見通し、アジアにおける証券化の過去と未来等に関する論文等を掲載する。出版時期は、平成21年11月頃を予定している。
- 発展・拡大を続ける中国金融資本市場の動向に関する中国及び日本の研究者の論文を編集した季刊誌「中国資本市場研究」の発刊を継続する。平成21年4月、7月、10月、および平成22年1月の発刊を予定している。

以上の出版物については、全国の約200箇所の大学図書館等に寄贈する。

4. 財団ホームページでの研究成果の公開

各研究会議の研究成果や出版物として発表された論文は、原則として、財団のホームページにおいて広く一般に公開する。